

日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2022年8月23日 火曜日

アプリケーションのインストール時にパラメータを設定する

[前回の記事](#)でStripeで支払いを行うアプリケーションを作成しました。その際、公開可能キーやAPEXが稼働しているホスト名、メール・アドレスを直接記述しています。

```
var stripe = Stripe('pk_公開可能キーの貼り付け');
var apex_path = 'https://ホスト名/ords/r/ワークスペース名/';
var successUrl = apex_path + '/stripe-payment/success?session=' + apex.env.APP_SESSION;
var cancelUrl = apex_path + '/stripe-payment/error?session=' + apex.env.APP_SESSION;
var customerEmail = '電子メール・アドレス';
```

これらの値はAPEXアプリケーションのインストール先で変更する必要があります。

アプリケーション置換文字列とサポートするオブジェクトの設定を行なった上でアプリケーションをエクスポートすると、そのアプリケーションをインポートする際に置換文字列に値を設定できます。

以下より、設定の手順を紹介します。

アプリケーション置換文字列を設定すると、前出のJavaScriptのコードは以下のように書き換えることができます。

```
var stripe = Stripe('&G_STRIPE_KEY. ');
var apex_path = '&G_APEX_PATH. ';
var successUrl = apex_path + '/stripe-payment/success?session=' + apex.env.APP_SESSION;
var cancelUrl = apex_path + '/stripe-payment/error?session=' + apex.env.APP_SESSION;
var customerEmail = '&G_CUSTOMER_EMAIL. ';
```

置換文字列として、**G_STRIPE_KEY**、**G_APEX_PATH**、**G_CUSTOMER_EMAIL**を設定しています。

アプリケーション定義の置換を開いて、置換文字列と置換値を設定します。



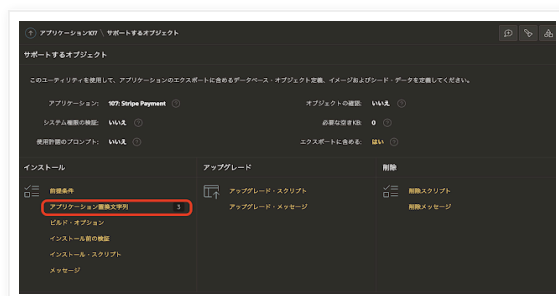
JavaScriptでは置換文字列、例えば**&G_STRIPE_KEY.**、PL/SQLやSQLではバインド変数**:G_STRIPE_KEY**といった形式で参照することができます。

置換文字列を設定した後にサポートするオブジェクトのアプリケーション置換文字列の設定を行います。

サポートするオブジェクトを開きます。



インストールのアプリケーション置換文字列を開きます。



アプリケーションのインポート時に、値の入力を要求する置換文字列のプロンプトにチェックを入れます。また、プロンプト・テキストを設定します。



現在の値は、インストール時に元の値として表示されます。センシティブな値の場合、エクスポートする前に変更しておくか、エクスポート・ファイルを直接編集して、元の値を変更しておく必要があります。

あとは通常のエクスポートを行い、アプリケーションをファイルに出力します。

そのファイルをインポートすると、インストールの手順の中で以下の画面が表示され、置換文字列の値の入力を求められます。



このような設定を行うことで、アプリケーションのインポート時に置換文字列の値を設定することができます。

[ウェブ バージョンを表示](#)

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.